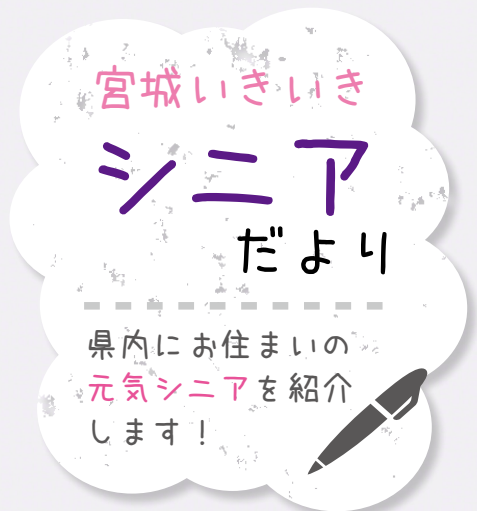




昨年、県社協が開催した「第21回宮城シニア美術展」の最高齢出展者である源間正彦さん（91歳・洋画部門出展）と奥様の紀美さん（85歳）にお話を伺いました。

源間さんは、定年退職後の63歳ごろから本格的に油絵を描き始めました。奥様の紀美さんも洋画を描いており、今でも二人で絵を描いているそうです。「絵は油絵が一番。消してもよし、直してもよし。それに比べると日本画は難しい」と油絵について話されます。そして、絵を描くには想いを込めること、趣味を持つことの大切さも力説されていました。

源間さんは毎日午前中の2時間程度は絵を描いています。「絵具を塗ってさえいけば楽しい。でも、描きたいものがないと



きは困る」と話されます。これまで描いた絵は1260点にも及んでいます。今は2週間おきに近所のかかりつけ医院へ持っていき、掛け替えるのが楽しみです。

紀美さんは果物や人形、風景を描くのが得意。「以前は二人で出かけ、写生をしていましたが、東日本大震災後は付近の風景が変わり果ててしまいい、行く気にはなれない」と憂いていました。

お二人は仙台市のシルバー創作展や宮城シニア美術展への出展だけでなく、2人展や夫婦展などの個展も開催。「家内は本格的に習っており、私よりも絵がうまい」と源間さんが語ると、紀美さんは照れ笑いを浮かべていました。源間さんは何度も宮城シニア美術展に出展し、入選しています。「絵を描く人にはシニア美術展への出展は励みになっている。主催者として、もっとPRした方がいい」と県社協へも厳しいご意見をいただきました。

今は夫婦二人暮らし。「これから二人で絵を描き続けていきたい」と源間さんは笑顔で話してくださいました。



宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

宮城県地域福祉総合補償制度

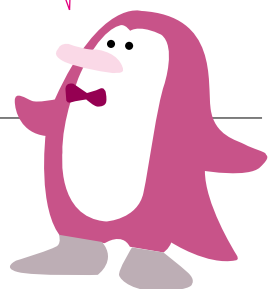
賠償責任保険をはじめ全6種目のメニューがございます。事故対応は全て地元で行いますので安心です。指定管理者に選定された事業者向けプランもございます。

- ① 事業者賠償責任保険（指定管理者向けプラン）
- ② 個人情報漏えい保険
- ③ 従事者災害補償 記名式／無記名式
- ④ サービス利用者傷害見舞金保険
- ⑤ 送迎自動車傷害保険
- ⑥ 日帰りサービス利用者傷害保険

★更新手続きはお済みですか？

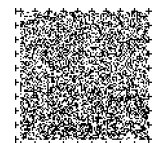
平成25年度に宮城県ボランティア活動総合補償制度並びに宮城県地域福祉総合補償制度にご加入の皆様・・・
補償は「平成26年3月31日」で切れてしまいます。継続するためには、再度申込手続きが必要となりますので、早めのご準備をお願いいたします。

ご不明の点はお問合せください！



お問合せ先
みやぎボランティア総合センター TEL 022-222-0010
三井住友海上火災保険株式会社 TEL 022-221-3171
(株) オンワード・マエノ TEL 022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。



ちいきをつなぐ

みやぎボランティア総合センターからボランティア活動や防災活動、福祉教育などさまざまな情報を発信します

仮設住宅から復興公営住宅への移行を見据え

巨理町社会福祉協議会のサロン活動充実の取り組み

巨理町社会福祉協議会では、仮設住宅内の訪問・見守り活動などを実施するため、巨理ささえあいセンターほっと（以下「ほっと」）を社協内に組織しました。今号では、ニュースポーツを取り入れるなどサロン活動の充実に取り組む「ほっと」の活動を紹介いたします。

活気がみなぎり笑顔が溢れる

「ほっと」では訪問活動やサロン活動などを通じて、コミュニティ構築、住民同士のつながりづくりなどの支援をしています。多くの方にサロンへ足を運んでいただけるよう、プログラム内容を工夫したり、これまでも地域住民に人気のあったニュースポーツを取り入れるなど、サロンメニューの充実を図っています。

巨理町内には5カ所の仮設住宅があり、「ほっとの日」として、月1回、各集会所でサロン活動を行っています。12月はクリスマススリースづくりを行うなど、季節に応じたプログラムを計画し、魅力のあるメニューづくりを心がけています。

ニュースポーツは輪投げ、スカット



活動を見守る櫻井生活支援相談員と得点を競う参加者

ボール、デイスゲッターなどのバリエーションがあり、対抗戦になるとみんなが競います。競技者本人だけでなく、周囲の方と共に一喜一憂しながら取り組んでいます。

参加者は「地区ごとの対抗戦は楽しかった。私たちの地区のチームが優勝したんだよ」と目を輝かせて話されました。また「参加するまでは、一人であるのに抵抗がありました。



クリスマススリースづくりの様子。オリジナルのリースができあがりました。

人と人とのつながりを町全体へ

「活動当初は仮設住宅ごとに職員を配置し、担当制にしていました。しかし職員の配置換えがあるとせっかくできた関係性が失われてしまうという課題があったため、サロン活動では担当場所に関係なく、仮設住宅の入居者と支援員の全てが関われるように工夫しています」と巨理町社協スタッフ。「ほっと」では入居者と支援員が顔見知りになれるような取り組みを心がけています。

サロン活動は復興公営住宅への転居を見据え、仲間づくり、コミュニティづくりを目指して取り組んでいます。

でも隣に住んでいる友人からの誘いがきつかけになり、ずっと続けています」との声も聞かれています。

また仮設住宅に入居されている方だけでなく、地域住民や民生委員にもサロン活動のメニューを紹介するなど、地域を巻き込んだ活動を展開しています。

「わたしたちがたがいにたすけあうり」そのまじ巨理へ

これから巨理町では復興公営住宅などへの移行が始まります。そのため、必要になります。今後、各集会所で行っているサロン活動が、被災者だけでなく町全体へ広がり、さまざまな福祉ニーズの把握につなげていくことを期待します。



WATAR1 town Miyagi

キャラクター名は『わたりちょう』巨理町の名産品であるイチゴが体の一部になっているのが特徴。「ふらっとーほく」と巨理町社協ボランティアセンターが共同でロゴ・キャラクターを作成しました。

